

令和2年度 学校自己評価結果等報告書

学校名（ 豊岡市立竹野南小学校 ） 校長名（ 西川 充洋 ）

1 学校教育目標

ふるさとを愛し、こころ豊かにたくましく生きる児童の育成
～夢の実現に向け「思考」・「挑戦」・「継続」～

2 学校教育推進の視点

- ① 校訓（自ら学び 友と仲よく 元気な子）が浸透している学校をつくる。
- ② 個性・特性が生かされる学校をつくる。
- ③ 家庭・地域と共に育む学校をつくる。
- ④ 自分の考えを持ち、仲間と共に考え、分かる喜び・できる喜びを実感できる児童を育成する。
- ⑤ 思いやりの心を持ち、明るく健康で、笑顔のあふれる児童を育成する。
- ⑥ ふるさとに誇りをもつ児童を育成する。

3 総合的な自己評価

「教育課程」については、特別活動の研究を推進し、学級活動、児童会活動等を充実させたことにより、児童の「自治能力」「人間関係形成能力」「自己実現力」の向上が図れた。また、総合的な学習の時間で、課題解決的な学習を核とした実践を行うことができた。「学校運営」については、学校教育目標を教職員が意識し、分掌や学級経営、教科指導に生かすことができた。また、きめ細かな児童観察、アンケート等を通して児童理解に努め、問題事案が発生した際には速やかに組織で対応することができた。コロナ禍の中で交流が制限されたが、園小中の縦の連携や小小の横の連携を図り、課題や成果を交流することができた。「課題教育」については、環境体験活動やふるさと学習等、体験的な活動を多く取り入れ、主体性と共同性を生かした学習活動に取り組むことができた。より良い生活習慣の定着について、依然、学校と保護者や児童との評価に違いが見られるため、改善を図る必要がある。また、配慮が必要な児童に対する指導法の研修を進めていかなければならない。

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策	自己評価の妥当性
教育課程	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	・ 学習規律・発表ルールの定着、家庭学習（自学）の習慣化	B	・ 児童の学力に応じた課題を出すなど、家庭と連携して家庭学習の習慣化を図る。	○ 「教育課程」達成状況の評価は妥当である。
	・ 道徳教育	・ 地域道徳教材、県副読本の活用、体験活動、実践力の育成	B	・ 日々の活動の中で、道徳的実践力を養う場面を取り上げ、道徳性を養う。	・ コロナ禍の中、学校教育にも制限があったと思われるが、できることを、工夫を凝らして行っている。
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	・ ALTとのコミュニケーション、全校児童とのふれあい	B	・ 総合的な学習では、コロナ禍の中でも実践できる教育活動を工夫していく。	・ ALTの来校が少なかったので、教師による指導の工夫をお願いしたい。
	・ 総合的な学習の時間	・ ふるさと教育、福祉教育、環境教育、課題解決学習の実践	B		○ 「学校運営」達成状況の表か妥当である。
	・ 特別活動	・ 縦割り活動、委員会活動の活性化、話し合い活動の充実	A		・ 学校通信「やつぎ」や児童会の「南っ子だより」等で学校の様子がよくわかる。
学校運営	・ 開かれた学校づくり	・ 情報発信、オープンスクール、学校評議員会、学校評価	B	・ 開かれた学校づくりに対して、コロナ禍の中で地域との交流の仕方を工夫し教育活動に生かしていく。	・ コロナのため地域との交流ができなかったのが残念である。
	・ 勤務時間の適正化	・ 定時退勤日の完全実施、記録簿の活用、教職員の意識改革	B	・ 勤務時間の適正化については、ウィズコロナの中で仕事の軽重を見直し、職員の意識改革を進めていく。	・ 危機管理に対してマニュアルの見直しなどを十分進めていただきたい。
	・ 引継ぎ連携システムの強化	・ 保小連携、小小連携、小中連携、保小中合同避難訓練	A	・ 職員研修については、年間の計画を見直し、量より質を目指した内容とするよう工夫する。	○ 「課題教育」達成状況の評価は妥当である。
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	・ 共感的児童理解、情報交換、指導体制整備	A		・ コロナ禍の中でも、源流探検等のふるさと教育を行なうことができている。児童が地域に魅力を感じる教育を進めてほしい。
	・ 職員研修の推進	・ 校内研修の充実、自主研修活動への参加	B		・ コロナ感染症予防のため読み聞かせボランティアの活動が制限されたが、10分間読書などの取組で本離れは起こっていない。来年度も読み聞かせを続けてほしい。
	・ 危機管理体制の整備	・ 危機管理マニュアルの周知徹底、情報提供、防犯・防災訓練	A		・ 特別支援教育については、個々の児童に対して十分な配慮をできるようお願いしたい。
課題教育	・ ふるさと教育	・ 計画的・継続的年間指導計画、家庭・地域との連携	A	・ 特別支援教育については、配慮が必要な児童の割合が高い中、一人ひとりに対する支援の方法などをさらに学んでいかなければならない。	
	・ コミュニケーション教育	・ 話合い活動の充実、縦割り活動・委員会活動の活性化	A	・ コロナ禍の中、体力づくりを行ってきたが、さらにできることを工夫し児童の体力向上を目指す。	
	・ キャリア教育	・ キャリア教育体制の整備、キャリアノートの活用、体験活動の充実	A	・ より良い生活習慣づくりを進めているが、休日の生活に課題を持つ児童が存在する。保護者への啓発をさらに進める必要がある。	
	・ 体験活動	・ 自然学校、環境体験活動、ふるさと学習、事後指導の工夫	A	・ 読書週間については昨年度よりついてきているが、読み物を選ぶ児童の割合を高める工夫が必要である。	
	・ 人権教育	・ 縦割り活動、福祉活動、いじめ・ネットの人権侵害防止教育	A		
	・ 特別支援教育	・ 定例校内委員会、個別指導計画、支援方法共通理解、専門機関	B		
	・ 環境教育	・ 環境体験活動、系統的な指導計画、問題、保全への実践的活動	A		
	・ 安全教育・防災教育	・ 避難訓練・防犯訓練、防災学習、交通安全教室、校外児童会	A		
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	・ 健康な生活習慣の確立、業間等の体力づくり、巡回運動遊び	A		
	・ 読書活動	・ 10分間読書、図書ボランティア活用、図書だより	A		

※上記の評価の観点は市統一とするが、各校で特色ある活動・重点項目を追加してもよい。

※評価項目は各校の実態に応じて設定するが、外部評価者が理解しやすい具体的な記述に努める。